

第2回 荒川区新庁舎整備基本構想・基本計画策定委員会 議事録

- ・ 日時 令和7年12月17日（水） 10:00～12:00
- ・ 会場 本庁舎5階大会議室
- ・ 出席委員 17名（欠席者1名）

（敬称略）

区分	氏名	役職名等	備考
学識経験者 有識者	坂田 一郎	東京大学 総長特別参与 工学系研究科 教授	委員長
	高橋 邦夫	合同会社 KU コンサルティング 代表社員	
	橋本 美芽	東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 准教授	副委員長
	山崎 誠子	日本大学短期大学部建築・生活デザイン 学科 准教授	
区議会議員	斎藤 泰紀	自由民主党 荒川区議会議員団	
	並木 一元	自由民主党 荒川区議会議員団	
	菊地 秀信	公明党 荒川区議会議員団	
	花澤 昭信	ゆいの会（都民ファースト・国民民主・ あたらしい党・無所属）	
	横山 幸次	日本共産党 荒川区議会議員団	
区民	鳥飼 秀夫	荒川区町会連合会会長	
	富永 新三郎	東京商工会議所荒川支部会長	
	今井 健一郎	公募委員	
	近藤 裕次	公募委員	
	佐々木 かおり	公募委員	
	竹澤 美壽保	公募委員	
	西 柊作	公募委員	
区職員	小林 直彦	副区長	

- ・ 傍聴者 1名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 建設地の選定経過について

(事務局説明)

資料1 建設地の選定経過

委員長

ありがとうございました。それでは、今の説明につきまして、ご意見、ご質問いただきたいと思います。ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

委員

この資料の中で、人口重心という言葉が出てきますが、これが建設地の選定にあたって、どのような意味を持っているのか、教えていただきたい。

事務局

はい。ご説明の中で申し上げました、本庁舎の位置としましては、地方自治法に「区民の利便性というところを勘案して位置については検討しなければならない」という規定がございます。

その意味で、お住まいのすべての人を同じ重量に換算した上で、一番均等になる地点というのが人口重心で、その場所が今の荒川区役所に近いということを示しています。

もちろん遠い方もいらっしゃいますが、一番人口重心から近いところに庁舎を位置することで、利便性を高めることができるというところから、人口重心という考え方を取り入れたものでございます。

委員

かなり前から新庁舎整備の話が出て、町屋の駅前の再開発の大きなビルができる時に、その一部に区役所を入れたらどうかという話もありました。また、西日暮里の再開発でも、同様の話が出たことがあります。

今回は、今の説明で納得するところですが、例えば、国有地、都有地で理想的なところがあって、それが使われないということがあったときには、対象となり得るのでしょうか。

事務局

現在、使用目的がない大規模な国有地及び都有地については、区内において存在していない認識でございます。

今後、何らかの事情で今回説明いたしました5つの視点を満たした国有地ないし都有地が出るということがあれば、検討の俎上に上がるかもしれませんが、今の荒川区内の状況を鑑みますと、かなり現実的ではないのかなというふうには思っております。

そういった点からしましても、やはり現庁舎の敷地でというところに至ると考えております。

委員

ありがとうございます。民間そして区有地の活用と書いてありましたが、国有地も公的な土地の一つであるので、参考にお伺いさせていただきました。

委員

いろいろ考えて、以前から提案のあった現庁舎敷地内での建替えは、現状からやむを得ないのかなという気はしています。

ただ、交通利便性、誰もがアクセスしやすいというのが非常に区役所にとって大事な要素と思いますが、町屋駅に近接した民有地は、市場価格ではもう到底太刀打ちできない、大手のディベロッパーとの競争では取得できない状況だと考えられます。そういう点では、公有地の確保についての様々な施策について、この庁舎だけではないと思いますが、やはり一定の国レベルの法的な対応が必要になってくるんじゃないかと思いますし、災害も含めて、優先されるものが何なのか。それも含めてこれを機会に考えていきたいなと思いました。

この示された案については、現状としては、この形でいくのかなと思っています。

委員

私の専門分野の話ではないですが、確かに交通の利便性ってすごく大事だと思っています。私のような遠方から来る人間にとっては、確かに町屋の駅前の方が遥かに利便性が高いかと思っておりますけれども、一方でこれからはこういった会議もみんなで集まる会議ではなくてWebでできるようになったりとか、手続きもオンラインでできるようになったりすれば、そこまで交通の利便性というのが重視される必要があるかなとも思います。

また、豊島区役所は明治通り沿いにあったものが、東池袋の駅前に移転しました。距離にすると数百メートル移転したのですが、移転したことによって、

移転直後に、旧区役所に行ってしまう人がすごく多くて、開庁後1ヶ月間は職員が旧庁舎の前に立っているというような状況でしたし、その後、半年ぐらいまでは、警備員を配置し、新しい庁舎はあちらですと案内していたということもあります。

そういった経費の面も考えますと、できる限り現庁舎に近いところの方が、そういった区民の混乱を招かずに済むのではないかと思います。

委員

私はこの資料を拝見して素直に感じたのが、町屋駅前の再開発と一緒にだったら一番よかったのに、タイミングが合えばよかったのになということと、今のやりとりの中で、非常にいい話が聞けてよかったなということです。

もう1つは、資料があそこもここも検討したが駄目だったという消去法のような形で作られているので、もう少しポジティブなニュアンスが感じられるように資料を作られた方がいいのかなと感じました。

1つ質問ですが、都市計画マスタープランは、こういった再開発をしたりとか、区の公共施設を作っていくときにおける、法的拘束力までではないにしても、準拠をしていかなければいけないようなものだとする、まちづくりとの整合性という視点で、マスタープランに基づくところが最適の場所なんだみたいなところを強調された方がいいのかなという感じを受けたのですが、その荒川区における都市計画マスタープランの位置付けというのを、ここで改めて確認させていただければと思います。

事務局

都市計画マスタープランにつきましては、平成19年3月に策定した荒川区基本構想が目指す「幸福実感都市あらかわ」を実現するために、都市整備における総合的な指針として、都市計画法第18条の2の規定に基づいて、都市計画に関する基本的な方針として位置付けられているものでございます。

法的な拘束力があるというわけではないですが、やはり将来あるべき姿の中で、まちづくりをこのように作り上げていくべきものというところの位置付けですので、準拠していくという点では委員のご指摘の通りであると思います。このマスタープランに基づいて、計画を進めていくその中に新庁舎の建設も含めていくものとご理解いただければと存じます。

委員

前回、建設地に関しては私もここが一択じゃないかってお話をさせていただいたのですが、今みなさんの話にもありましたけれども、駅から近い方がやっ

ぱりよかったなという思いはもちろんあります。

ただ現実的には難しいと思いますし、10年経ったときには、人口の比率なども変わるし、ネットを使える人も増えてくる。区役所にどうしても行かなければならない人も今の時代よりは減ってくると思われるので、そういった10年後を想定してこの会議で話していければよいのではと思っています。

委員

面積にして8,000㎡が新庁舎建設に必要と記載されているのですが、これは分割して建てる方向でも良いのでしょうか。

例えば、町屋駅や日暮里駅に1か所ずつ建てて、今の現庁舎敷地に1つ作って、実務としては、税務課は町屋でやる、戸籍課は現庁舎でやるみたいな形にして、区民としては手続きはどの庁舎でもできるし、オンラインでもできるようにするみたいなことは、現実的にあり得るのかなと思って、質問させていただきました。

事務局

今の区役所機能がいくつかの庁舎に分散しており、それを集約する方向で検討したところがありましたので、逆に分散させるという考え方は現状しておりません。

現在も、各地区に区民事務所を設置しておりまして、一定程度の手続きができる体制は整えているところでございます。

先ほど、議論の中でもありましたが、これからは区役所に来なくても手続きが可能なものが増えていくことも想定されますので、庁舎機能を集約させたいというのが第一にあることについてご理解をいただきたく存じます。

委員

ありがとうございます。

委員長

最初に人口重心についてご質問がありましたが、私の理解では区民の方々一人ひとりを公平に扱ったときに、区役所までの移動距離を最小化するような概念だと理解しています。

荒川区の場合は、自転車とか徒歩の方が非常に多いので、そういう意味で意味合いが大きいかなと私自身は思います。

もっと広い地域の場合は、交通手段がいろいろあり、交通手段を考慮すると、単純な人口重心が指標とはならない場合もあると思いますけど、荒川区は

徒歩とか自転車の利用者が非常に多いので、そうすると移動距離の最小化っていうのは意味があるのではないかと思います。

それから、引き続きこの場で検討していきたいと思うのは、区役所前の都電とのアクセスとか、自然公園も近いので、緑地とのアクセスや緑地帯との接点拡大とか、そういうような議論はさらに必要と理解しております。

先ほどの分散の話につきましては、説明がありましたけども、町屋の駅前とか、南千住駅前に別途区民事務所があることもあり、そういったものも含めて考える必要があると思いますが、私は先ほどのご説明に加えて、区役所の方々の間でコミュニケーションが良くなることはかなり重要だと思っていて、コミュニケーションをよくする意味では1つのところに集まっておられた方が良いと思いますし、そこに対するアクセスはオンラインであっても、中のコミュニケーションがいいと、やはり区民サービスの向上にもつながると思います。

委員長

他にご意見はございますか。

(他の意見なし)

委員長

それでは、本委員会において、新庁舎は荒川公園を含む現庁舎敷地において建て替えることを前提として議論を進めさせていただきたいと思います。

4. 議事 <基本理念・基本指針・整備方針の検討Ⅰ>

基本理念・基本指針の検討

(事務局説明)

資料2 第2回資料【検討の流れ】

資料3 第2回資料

委員長

基本理念と基本指針の検討については、本日と次回に渡って議論いたします。今日、委員の皆様をお願いしたいのは、テーブルの上に皆さんのアイデアをすべて出していただくことを重視して、自由に発言していただき、この時間を進めたいと思います。

まとめ方とか色々ございますけど、それは最後の整理でできると思いますの

で、あまり気にしていただくことなくご発言いただければと思います。

委員

2点ほど質問と提案がございます。

1つ目は質問ですが、20 ページ、検討にあたり踏まえるべき要素というところで、調査結果からキーワード抽出しているのですが、これは、絶対的なものなのか相対的なものなのか、どちらになるのかが少し気になりました。例えば、荒川区民総幸福度の環境のところ、「公共施設がバリアフリーの面から誰もが使いやすいかと思うか」という質問に対し、「思わない」が2割半ばの結果となっていて、これだけ見ると2割半しか使いにくいって思っていないんだと思ってしまうのですが、キーワードとしては「公共施設が使いやすいと思わない」となっている。例えば、他の区だと、「思わない」が1割ぐらいしかいないのに荒川区だけ2割半ばであればわかるんですけど、ちょっとその辺りがわかりづらかったので、他区の同様の調査結果などがあれば、教えていただければと思います。

もう1つは提案で、23 ページの図の中で、水色の部分だけ、枠でくくられていないのですが、このキーワードを見ていると、何となく地域の魅力アップや荒川の魅力みたいなのがキーワードとして出てくるのかなと思ったので、いろいろご意見出てくるかと思うんですが、1つの意見として、「荒川区の魅力を発信する庁舎」というのも、ご検討いただければと思います。

委員長

地域固有の荒川の魅力という部分ですね。基本指針の候補として考えられると思います。質問の部分については、事務局より説明をお願いします。

事務局

バリアフリーの調査結果についてのご質問ですが、他区がどのような割合か、当区と比べて多いか少ないかといった部分については、情報を持ち合わせておりません。

しかしながら、現庁舎が昭和43年の建築というところから、当時は先進的であったと思いますが、バリアフリーという観点からは、やはり不便に感じられている方が一定数いらっしゃるし、絶対的ではないですが調査結果もそれを示しているものとして抽出しました。区としては、しっかりと今後の議論の中でも検討していく要素になると考えております。

委員

全体にかかる話で、23 ページのキーワードあたりを見ていると、区役所の方

が作っている資料なので書きにくいのだと思うのですが、一番区役所を使っているのは、区の職員の方だと思うんです。毎日来られているのも区の職員の方なんです。

この踏まえるべき要素というのは、あくまで区民の目線でしかないような気がします。今私は大学の教員やっていますが、区の職員になりたがる学生が減っております。

カスハラの問題とか、サービス業のこんなことやって当たり前だろうみたいな感じのことをおっしゃるような来庁者の方もいらっしゃいますので、そういうのも面倒だなんて思う若い子たちが多くいます。少子化もありますし。私の頃は、それこそ就職難だったので、国交省とか区役所とかだったらいいよねって言っていたのが、今は全然そうではなくなっているんです。

そういう状況で、利用する側の視点はすごく大事なことですけれど、この庁舎を使う側の視点としても、やっぱりちゃんとしておかないと、働いてくれる人がいなくなってしまう。

例えば区民からすると、職員の方が働ける姿が見られるほうがいいなんて思ったりするのですが、監視されているような感じがする建物では、こんなところで働きたくないなって、なってしまうと思うんです。

そのことから、区の職員が本当に安心して、ここで働きたいと思うような建物が必要だと思います。働きたいとか働きやすいっていう視点を入れて欲しいと思いました。

事務局

確かにここ数年、特別区全体においても、職員の採用申し込みが減ってきていまして、なかなか採用ができない状況が続いております。

ご指摘の通り、魅力のある区や、働きたくなるような庁舎、新庁舎が完成した区では、その区を希望する学生さんが多いという話も聞いております。そういったことから働く人目線の視点は重要であるのかなと思います。

ただ、委員がおっしゃられたように、区の職員の視点を積極的に記載することは難しい部分もありまして、そういった面で漏れてございました。

また、18ページの検討にあたるべき要素の中で、一番下のところに、「荒川区職員魅力ある職場づくり推進計画」というものがございます。これは令和7年度までの計画ですが、職員が働いていく上で、社会的に言われている、ワークライフバランスであるとか、働き方改革についての方向性を示した計画で策定する予定でございます。そのことも含め、ぜひ働く側目線の視点も入れていきたいなというふうに考えてございます。

委員

職員にとって魅力的な庁舎になるのは大事なことで、それはセキュリティの面だとか、オンライン手続きの推進だとか、DX 推進とかっていう部分からもうえるのかなと思います。

1つの例として、役所ってカウンターだらけなんですね。どこの係にもカウンターがあって、それが当然廊下に面しているので、来訪者から見れば、職員が働いている姿が丸見えという環境になっています。これって、今の若者のセンスから言うと、全くナンセンスであって、やはり自分たちが集中した環境で働けるというのは、当然、その後の効率が上がるのは当たり前のことだと思います。

中野区役所、ぜひ皆さんにも見に行っていただきたいと思うのですが、中野区役所は高層階を、産業振興によるものだとか、教育委員会が入ってたりとかという部門の窓口が、カウンターが5個か6個しかないんです。2つ、3つの部があるにもかかわらず、カウンターが5個か6個しかない。

建築・土木というと、建築課にも窓口があるし、土木課にも窓口があってということになると思うんですけど、中野区の場合は5個か6個しか窓口がなく、その奥はすべて職員のための空間になっているんですね。

そうしますと、来訪者の方はその窓口で、番号札を引いて、道路台帳を取りに来たと言えば、道路台帳の担当者が出てくる。都市計画図を取りに来たと言えば都市計画の担当が出てくる。

そういった形で、来訪者からすれば、そこで番号札を引いて待っていればいいという形で、あっちのカウンター行ったりこっちのカウンター行ったりなんてこともなくなりますから、来訪者にとっても便利ですし、職員にとっても、カウンターに張り付いている必要がないですし、自分たちが働いている姿が見えちゃうってこともないので、1つの参考事例になると思います。

このようにして今、だんだんそういう職員が集中しやすいような環境の庁舎が増えてきておりますので、是非、何かこれまでのカウンターが並んでいるというのが当たり前のような庁舎っていうのをイメージしないでいただいて、ぜひ職員のこと考えて、セキュリティ面を考えた庁舎っていうのを考えていただきたいなと思います。

あと、基本理念ですが、基本理念はビジョンだと思っておりまして、幾つも並べるのはあんまり基本理念としてよくないかなと思います。

その代わり基本指針の方で、そこを充実すればいいんじゃないかというふうに考えております。

私はこの⑥の「交流」って言うのはすごく大事だと思っておりまして、今、

総務省の方では、フロントヤード改革っていうのを進めています。

まさに先ほど言ったように、庁舎は窓口だらけだったんですね。もう一昔前の銀行などがそうだったと思うんですけど。銀行って支店に入ると、カウンターがずらっと並んでいて、今の区役所と同じような感じで、税金払いに来ましたとか水道料金払いに来ましたとかっていうと、すべてカウンターで受け付けていました。今の銀行は違いますよね。正面入口入ればもう ATM コーナーしかなくて、銀行職員は基本的には窓口には座らない形になっています。

総務省がやっているフロントヤード改革として、区役所もカウンターに座って職員が働くのではなくて、もっと集中して働ける、職員じゃなきゃできない仕事に専念しましょうというような形になってきています。

そうするとカウンターがなくなる分、生み出される空間が出てくるんですが、この生み出された空間をなんのために使うかっていうと、区民の交流のために使いましょうっていうのを、総務省が言ってるんですね。

窓口に来る必要はなくなるんだけど、その分区役所に来たら何か楽しいことがあるよとか、常に催しをやっているよとか、そういうスペースを作っていたことで、手続きのための役所ではなくて、もっと区民との交流を盛んにするための役所っていう、そういうものができ上がると良いんじゃないかなというふうに思っていますので、私はこの⑥は是非、加えていただきたいです。

もう1つ足すんだったら、先ほどご意見ありましたけども、この青い部分です。私は文化が、荒川区の特徴なのだろうと思って、よその人間から見ているとやっぱり文化に力を入れている立派な図書館だったりとか、そういったところも少し基本指針に入れていただくと良いのではないかなと思いました。

委員

子どもたちの友人だったり、近所のお子さんを見ていると、会社を辞めて、やはり区の職員だったり、公務員になりたいっていう方を何人も見ていたの、公務員になりたい人って多いんだなってずっと思っていたのですが、今の学生はまた変わってきているんだっていうのを、数年でこうやって、人間の感覚というか、時代が変わると、学生の感覚も変わっていくんだなってすごく驚きました。

建物ってすごく重要で、若い方たちは、例えば大学なんかも、自分の大学が映画にロケで使われる、ドラマで使われる、そうするとやっぱりそれなりに綺麗だったりするわけですね。

新庁舎を建設するにあたって、委員からもありましたけども、用事があるから行くわけではなくて、荒川区役所に行って少しまったりしたいとか、ちょっとゆっくりしたりとか、そういう人を呼び込むっていうのもすごく大事ななと

思いました。

先日、サンパール荒川でミュージカルがありまして、あらかわ宝物さがし物語というミュージカルでしたが、まさにそれがこの⑥の魅力ある荒川の交流拠点となる庁舎というところに繋がってくるんですが、私は荒川区に住んで25年になりますけども、ここに住まなければ、こんなすばらしい荒川にある魅力を知らないわけですよ。

外に発信することを荒川区として、やった方がいいんじゃないかと思えますし、そういった意味の拠点にもなるというのかなと思いました。

本当に生地問屋の始まりだったりとか、松尾芭蕉はもちろん私も知っていましたけれども、荒川区では学校でも、俳句にすごい力を入れてますし、そういったところがもっと周知されていくことが大事かなと思います。

そういう場所を区役所の中にこういった形で組み込んでいくかって言うのはすごく課題かなとは思いますが、やはり長きにわたってここは代々住んでいる人が多いので、あらかわ愛がとても強い区民が多いなって言うところがあるので、交流っていうところは大事だなと思います。

荒川区役所にもレストランがあるんですけども、若い方とかでも行きやすいようなカフェをぜひ入れて欲しいというのがあります。若い世代の方も、ちょっと行ってみようかとなってくると、もう少し荒川区の中心に魅力が出てくる、人の交流が出てくるのかなと思いました。

例えば、世田谷区には、図書館の中に喫茶店がありました。荒川ではゆいの森にもあります。ただ世田谷区の場合、福祉の方を雇っていて、そういう方が、ウェイトレスさんのようにやっていたので、そういった雇用を作るっていう形も1つあるかなって思います。そこは図書館でしたが、区役所でもカフェという形で、雇用を生んでいくのも大事になっていくかなと思っております。

やはり用事がなくても行くっていう、世田谷のキャロットタワーのような、ちょっと景色を見ていこうとかでもいいです。

水害の話はたくさん出ていましたが、やはり重要なのは水害とともに暑さだとも思いますので、街中避暑地はいくつかありますが、何をするわけでもないけど区役所に来ればゆったり涼しめるよっていう空間をつくれるといいのかなって思いました。

委員

同じような意見なんですけど、文京区の区役所は、若い人たちからゴジラ区役所って呼ばれています。後樂園はいわゆるモスラの卵みたいな建物で、あの辺は大学があるので、みんなそこを目指して行っていて、素晴らしいレストランがあって、レストランで食べるっていうのをよく聞くので、何かそういう、シ

ンボリックなタワーが荒川区にもあるといいなと考えていました。区役所がそうなのがいいかなと思います。

委員

ちょっと感じるどころがありまして、まず1つは、先ほど委員からお話ありました、区の職員に関すること、これは非常に大事だと思います。

本当に、今、区の職員の転職ブームですから、入ってくる方もいるかなと、そう言ったときに荒川区の区役所の魅力っていうのは、職員のためでもあると思います。

あと、私ども区民や区のシンボルでありますから、高さが高いとか豪華だとか、先ほどあったロケの候補地になるとか、さらに誇りを持てるというのは大事だとは思いますが、高さについて言うと、高い建物を建てた区役所の議員に聞きますと、荒川区の方がいいなんて言うんですね。1番下から1番上まで階段で行けますから職員が楽でいいと、これが15階20階になってしまうと、何かあると、かなり前からエレベーター移動しないと間に合わない。そういうこともありますので、その辺はこれからの検討だと思いますが、要するに高いのが悪いとかいうのではなくて、そのようなことも含めて、移動の手段や状況などを考えていただきたいと思います。

次に交流ですね。交流スペースはやはり作るべきだと思いますね。現状は、サンパール荒川に任せています。表彰式とかがあると、やっぱり区で表彰するのは小さな表彰だけです。区長室で表彰するのもすごい誇りになりますし、区役所の中での表彰は意味があると思います。

昔、私の成人式がここでした。建物ができてすぐだったので、まだサンパール荒川もなくて、本庁舎の6階か7階でやったんですが、私としては、これがすごく誇りなんです。そういった意味で多目的に利用できるスペースがあると区役所に足を運びやすいと思います。

あと、荒川区の職員さんは遠くから電車で来ているんですね。そうすると、町屋とか西日暮里とか日暮里とかから、バスなどを使ったりして来てるんですね。そういった中で、来たらほっとできて、ゆっくりできて、夏は職員が休む涼しい部屋があるとか、表回って帰ってきたときに涼しい部屋があるとか、そういった区の職員にも、これから気を遣う時代じゃないかなと、長年見えてきて思います。

委員

今までの議論を聞いていまして、私も重なるところがあるので発言させていただきたいと思います。

職員の話ですね、やはりこういった理念だとか、この指針に入れにくいという話があったんですけれども、職員が力を発揮できる庁舎とか、そういった表現にすれば、区民に対してのサービスの向上にも繋がりますので、そういった表現で、指針等に含めていくのがいいのかなと感じました。業務間の連携であったり、DX って話も関連してくると思います。

それから災害時には、職員自身も安全でなければいけないわけですし、業務を継続するっていう観点でも、そういった区民へのサービス向上という部分を入れていていただきたいと思っていました。

また、それに関連して繋がるという意味で、この人と人ですとかまた行政と地域、これを繋いでいくような庁舎、そういった視点も必要なのかなと思います。職員も区民も含んでということで、理念の中には、人をつなぐという表現を入れてみてはどうかと考えていました。

色々考える中で、荒川区はどんな土地なのかって言うようなことも考えまして、例えば港区だと、国際都市って言うてもいいのかもしれないですし、豊島区であれば、商業都市って言うことですか、台東区であれば観光都市とか、そういった中で、荒川区はと思ったときに、私個人としては、生活都市というような言葉が当てはまりやすいなというふうに感じております。

そんな中で、暮らす場所、育てる場所、学ぶ場所、働く場所、老いる場所と言うような、そんな生活、暮らしが重なり合う都市なのではないかなと思っておりまして、そういった観点からすると、生活を守ると言う視点も必要なのかなと思います。

生活を守るというのは、例えば困り事があったときに、相談窓口に行く。迷わない動線であるとか、相談しやすい窓口なども、生活を守ることですし、当然ながら防災の観点もここに含まれると思うんですね。水害だとか、木密だとかそういった荒川区ならではの特性を、生活を守ると言うそのような表現で収めていきたいなということもあります。

もう1つ、未来への責任というような表現も、入れて欲しいなと思っていました。先ほどもありましたけれども、荒川区の高層ランドマークのような庁舎ではなくて、壊れにくくて長く使えて、またランニングコストも抑えていく、未来世代へ負担をかけない、そういう視点も必要なのではと考えました。

まとめると、生活を守るような、また人をつなぐような、未来への責任を果たすような。1つ目に言った生活を守ると言うのは住民サービス、また防災というさっきのカテゴリで言うと、そういったものにも当てはまりますし、また人をつなぐというのは、さっきのカテゴリで言うと交流。それから未来への責任果たすというのは先ほどのカテゴリで言うと、環境配慮だとか、施設の維持とか、そういったことにも当てはまるなというふうに思っております。そうい

ったものを、生活都市と絡めながら、じゃあどうやって表現するんだっていうのは今ここではお話できないですけども、上手く考えていただければ、要素として入れていただければということで考えています。

委員

率直に言ってこれをまとめていくのは本当に難しそうだなと、私は思いました。

20 年少し前に、全国的に珍しく、荒川区で教育ビジョンというのを作っていただいたんですけど、それはビジョンであるから、理念をまず冒頭に作る際に、明るく豊かなとか、優しく穏やかに健やかになどはやめようといって、具体性があった方が良いということは申し上げたことがあって、そのようなビジョンができています。

個人的な意見としてですが、建物がやはり大事だと思います。設計会社は基本的に長方形の建物とかを作りたがるんですね。私は多少遊び心のあるようなシンボリックなものがあるといいんじゃないか、そういうふうに思っています。資料を見ても、6 ページの品川区役所などは、いろんな思いを入れた外観にされようとしているのかなっていうのが感じられるところでありますね。

もう 1 つは、職員の方たちが働きやすい環境、これは絶対必要だと思います。やはり役所がこういう計画を作ろうとすると、どうしても区民目線中心にせざるを得なくなってくる。役所としてはこうだっていうのがもっと堂々としてあっていいと思う。この場ではないが、庁内でも部署や年齢に限らず、全体で具体的に検討・提案する場があってもいい。

最後に、職員の働きやすい環境っていうことだけではなくて、お越しいただく区民の方も、区民でない方も、利用者というだけではなくて、お客様という感覚で、やはり迎え入れるのはとっても大事だと思っています。

一方で、区民であろうと、お客様であろうと、利用者の中に暴言があったり、暴力的な方というのが一定数いるのは確かで、区役所の職員を守るといって、どういう作り方をしたら守っていけるかということも、計画の中に入れていただいてもいいような気がしています。

委員

やはり庁舎としては、イメージですが、どういう建物にしても、前後周囲を考えると、庁舎プラス公園、これから拡張される補助の 90 号線ということで、非常に広い意味での平面的に使える空間というのができそうだと思います。

そうすると、庁舎を中心として、昔ならば教会を中心としてとかあると思う

んですが、多分、都庁もシティホールということで、住民がそこに多く集まっても耐えられるような、多少イベントができるスペースがある。

荒川区でも、業務だけでなく、そういったイベント的なものも公園も交えてできるような、幅というか、広さっていうのがあったらいいかなと考えます。

それと、都電荒川線の位置付けについて、私も荒川区の中心的な交通のところでいうと、やはり都電というのがあります。都電を活用できない地域もあると思いますが、区内の60%から70%ぐらい網羅してるんじゃないかなということで、これをもっと荒川区としては前面に出したほうがいいんじゃないかと思います。つまり、沿線には遊園があり、それから庁舎があり、サンパール荒川があり、そして公園やゆいの森あらかわがあって、また交通の面でも、日比谷線や千代田線などが使える。荒川区は、よくテレビを見ると、非常にマイナーなところでとらえられて、地震に弱いとか、いわゆる地層的に非常に水が出やすいとか言われながらも、一方で、バラが咲く頃になると、荒川都電沿線のバラとか。やっぱり良い面・悪い面が放映されたり、報道されたりすることで、住民の意識にそれが刷り込まれているんじゃないかなと思うのですが、やはり都電の沿線と庁舎のイベントが可能につくりがあってもいいんじゃないかなというふうに感じたところです。

委員

資料をもらったときに検討する趣旨が、基本理念と基本方針の検討ということだったんですが、資料を最初に見たときに、難しいなっていうふうに思いました。

言葉の定義で、この定義は理念になるのかな、それとも指針になるのかなっていうのは、切り分けが自分の頭の中では全くできなくて、先ほど委員もおっしゃってましたけども、理念っていうのは、誰が見ても、ずっと入ってくるようなものであって、当然、文章で表現されるためには質問があったときに、その根拠を説明する責任はあると思うんですけども、この基本指針と整備方針についても、一般の区民が見ても、理解できるような表現がやっぱり望ましいのかなというふうな感想を持っています。

Aの方でまとめていただいた各区の方針ですね、1番から5番までは、各区が本当に知恵を絞って作られてきた内容なので、この内容以外に、荒川区の特色を述べるような、何かしらの視点というのは持てるのかなっていうのは思うところです。

6つ目にあった交流ですね、これはBっていう、踏まえるべき要素に表現されていると思うんですけども、区民が、誇りを持って表現できるっていうの

は、この要素の中の、都電とかですね、俳句とか繊維とかってありましたけども、ここにつなげることは、荒川区として何かしら考えられるのかなというふうに思ったりします。

自分がニュースとか見ていて思うのは、例えば高円寺で阿波踊りの祭り、浅草のカーニバル、あとは目黒でサンマ焼いて配るのやってますよとかっていう、ああいうのって交流の中の大きなインパクトに内外に発信できているような印象を持っています。

スポーツ推進委員で、この間ハロウィンとか、そういうイベントでお手伝いをさせてもらったときに、小学生がダンスを、男の子も女の子もみんなそのダンスグループを作って、表現の場を求めているところを拝見しました。自分が子供のころには、野球とかサッカーとか、そういったメジャースポーツでクラブに入っていましたけども、ダンスなんかで自己表現をするような、そういう子どもたちを見て、もしかしたらこのスペースの中に、イベントスペースみたいなものを、区役所の中に組み込んだりとかして、皆さんがそういった興味喚起するようなイベントで、ご参集していただいて、何か交流が持てる、そういうふうなものが自然とこの構想の中に入っても良いのではないかというふうに感じました。

委員

いろいろお話聞いて、事前に私も考えてきたことがあるんですが、基本理念の方はおそらく基本構想との整合性が図られるのかなって思っています。

すごく思ったのは、最初の立地のところで言ったんですが、アクセスって大事だとずっと思っているんですよ。今言われた中で言うと、この6番目の交流のところですね、人が集まったりするだけじゃなくて、また、行ってほっとしたいって言う、大事な空間ですね。あわせて、住民自治というか、区民に開かれて、区民が参加をして、そして協働して区政を進めていくという拠点にしていく必要があるのかな。これは、様々なソフト的な要素も含めて、区民に区政を知らせる情報公開をもっともっと徹底していくとか。

こういうことになった場合に、物理的な庁舎っていうだけじゃない、空間が、そこにどう作られていくかっていうのは、今後の整備方針で決められていくのかなと思います。

それと、都市計画マスタープランとの関係で、アクセスが庁舎や公共施設にきちんとできるかっていうあたりは、また検討されると思うんですけど、庁舎という一番中心的な建物で、それをどう実現するかというのも1つの課題なのかなと考えます。

それでいうと、機能的・効率的な場所は大事だと思うんですね。DXが進ん

で、手続きも役所に行かなくてもできるものが増えていく。一方で、今こういったデジタル社会の中で、人と人との接点が減り、直接的に会話をしたり、いろんなことの悩みを打ち明けて、相談したりする、そういう場がだんだんなくなってきているっていうのも、社会的な問題としても指摘されている。

そういったなかで、そういうものにも対応できるような、デジタルと、専門的な様々な人がきちんと「区民の困った」に寄り添えるような区役所。区民にとって、頼りになる区役所として、どう位置付けていくかって言うのが非常に大事なのかなというふうに思っています。その点でも、様々な要素を取り上げて、きちんと整備をして行く必要がある。

それから、長寿命化って非常に大事であり、今話題になっている、建物の更新が進まないっていうことがあるんですけど、躯体そのものは今の技術では相当長く持ちますし、躯体は庁舎として使っていける。それに耐えうるような形だとか時代がどんどん進んでいっても、長寿命化もできるし、古臭い建物だとならない、古臭いほうがいい場合もあるけれども、基本的にはそういうポイントとして考えていく必要があるのかなと思っていますし、シンプルイズベストだったらいいのかなと考えています。

まず、区民が利用しやすい、職員にとっても働きやすい。あとは、多文化共生という概念の、区民のうち約11%が外国籍の方で、住民として生活してるわけですから、そういう点では、ある意味ユニバーサルデザインを大胆に取り入れて、荒川区独自のものがソフト面で示していければ、新しい大きな魅力になってくると思います。このあたりは、色んな検討をして頂けたらと思います。

委員

他区の事例を見ましても、若いころ会社で言われた、マズローの欲求五段階説を思い出しまして、おそらくこの基本指針の5つ目までは、五段階説でいうと、生理的欲求、そして安全の欲求、社会的欲求といった他区とも共通の要素で、6番目の要素になって、はじめて承認とか自己実現について関心が高まり、皆さんからもご意見が出てきているんじゃないかなというふうに思っているんです。

それで、6つ目の議論を色々している中で、踏まえなければいけない要素として、要は荒川区らしさとは何かというような話で、事務局にご質問ですが、40年前あたりに川の手荒川宣言っていうのをやられていると思うんですね。それから俳句のまち宣言が10年ほど前からやられているのですが、この2つというのは、例えばこの18ページに出ている区の関連計画、検討にあたり踏まえるべき要素の1つなんではないでしょうか。それとも、あれは観光の需要喚起のためのプロモーションキーワードぐらいの位置付けなのか、ちょっとその辺りを教

えていただければと思うのですが。

事務局

18 ページでは、区の主な計画等を挙げさせていただいているところです。

俳句のまち宣言につきましては、これは区を挙げて、俳句文化を醸成させていこうという取組のもと始めたものでございますので、本庁舎の建替えに当たって、要素として入れていけるかは今後の課題になると思うんですけども、区としては重要な要素であるという位置付けでありますので、その点はしっかり踏まえながら考えていく必要があるだろうと思います。

川の手荒川まつりは随分前からやっているところではあるんですが、川の手荒川宣言というのは、すみませんが存じ上げておりません。

委員

川の手荒川まつりは、もう 40 回もやっていますよね。たまたま部屋を整理してしましたら、40 年前のある雑誌のコピーを見つけまして、40 年ほど前に荒川区のまちづくりに関する意識及びイメージ調査というのを、東京商工会議所荒川支部と青年会議所荒川区委員会がなさっているんです。

その時に、区民が荒川区で今誇れるものを挙げて下さいって言うアンケートに対して、第 3 位が荒川自然公園、第 2 位が総合スポーツセンター、第 1 位が断トツで都電なんですよ。

やはり都電って言うのは、内側からも外から見たときも、一番荒川区らしさ、イメージの代表選手であることは間違いないのではないのでしょうか。テレビ東京のアド街ック天国でも、直近 10 年間で荒川区のまちが 6 回特集されてるんですが、その中のベスト 20 に入っているものを全部調べたら、都電ともんじゃ、これが 3 回ずつありました。つまり、40 年たった今でもやはり外から見ればもんじゃと都電の町なんだということになります。

前回、都電との連携の質問をさせていただきまして、言い足りなかったなと思ったのは、都電の駅をぜひ新庁舎の敷地内に入れてくださいということ。駅前って今の場所じゃなくて、もう少し中に引込んで、都電と荒川区っていうイメージをもっと密接にするぐらいのことを考えられたらいいかなと思います。

それからもう 1 つ、今申し上げたアンケート調査の中で、第 6 位に開成学園が入ってたんですよ。やはり知的情報機関があるかないかも、重要な要素の 1 つだと思います。気が付くと、川向こうの足立区には大学がもう 5 つもあります。荒川区内を見ると、東京都立大学の荒川キャンパスが 1 校。ぜひ、交流の視点で、都立大学には、新庁舎に荒川のキャンパスのエクステンションセンターとして、研究機関の一部でもよいので誘致されるように努力されたら、より

イメージも良くなるのではないのでしょうか。自由に発言してよろしいと言うことだったので勝手なことを申し上げましたが、以上でございます。

委員

10年経ったときに、荒川区民の方が納得、全員が納得は絶対的に無理かもしれませんが、大部分が納得することが必要と思います。

でないと、税金は高い、箱ばかり作ってと、こちらに座ってらっしゃる方は、生活の中でそう言ったことを言われる可能性も出てくる。本当に責任のある役割と考えて座っています。

やはり、ゆいの森あらかわができた時に、あんな箱物ばかりあっちこっち作ってと言う方は言うんですよね。

その方がすごく使うわけではないから言われるのかもしれないですし、ゆいの森はすごく今、喜ばれていると思うので、その時はこういったことで作られているんですよと、私も話をしています。

やはり皆様が納得するのは難しくても、これだったら新しくして良かったねというものを、この資材高騰・物価高騰の中で、本当に今大変なものを作ろうとされているんだと、ものすごく感じております。

本当に少しでも区民の方が納得して喜んで使えるものというところで、やっていかないとならない。大事なものは、まず、中に入って利用するのも当然ですし、災害のため環境のためというのも当然ですけども、やはり区民の方が納得するもの、いかにそこに近づけて作っていくかが大事ではないかというのをすごく感じました。

高い建物を作るとか、立派なものを作るとかではなく、大事なものは、心を作る、ここの皆様の心がどれだけ表現できるかっていうのが、やはりこれからの庁舎を造るに当たって必要だと思いますし、現実的な金額の問題もあると思いますが、私が、10年、15年、まだ生きていた時に、委員会でこう言うふう

に発言したと納得できるようにしたいと思います。

委員

バリアフリーという言葉がいろいろ出てきております。荒川区バリアフリー基本構想というものがございますが、その策定、更新版、それらに携わって参りました。

バリアフリーというのは、本来は物理的なものだけではない意味を持つのですが、日本では、物理的な意味が非常に大きく偏って使われています。例えば、段差をなくすとか、手すりをつけるとか、その行為を表すのがバリアフリーです。一方で、ユニバーサルデザインという言葉も使われておりますが、こ

ちらは、どちらかというハードの面を指すものです。

23 ページを拝見しますと、行政のデジタル化、それから区民の方も今後の多様化で、オンライン上、ウェブ上で、いろいろな手続きをする方も増えてくる。すると、そこに対する、使いやすさということも、バリアフリーという言葉だけでは表せない。今回は使われておりませんが、アクセシビリティという言葉もあります。アクセシビリティというのは、英語圏で使われているバリアフリーに相当する言葉なんですけど、手すりをつけるなどの行為に対して、アクセシビリティというのは、どれだけ使いやすいかという視点に立っている。ハード面に対してもソフト面に対しても使える言葉です。

従いまして、バリアフリーだけに偏らない、区民の使いやすさということについて何か、盛り込めないかなと思いましたが、江東区がアクセシビリティという言葉で理念とか、それから指針の中に入れてらっしゃいます。

その辺の言葉の使い方が、今回、大切な意味を持っていると思います。事務局にぜひ次回までに、バリアフリーという言葉の定義ですとか、ユニバーサルデザインという言葉を使い分けていくのか。江東区さんが言うような、アクセシビリティという言葉、物理的に何をするのかではなく、どんな使い方、どんなふうに使いやすくなっているのかという視点からも、言葉の整理をするということをしていただければ、資料づくりにご負担をおかけして申し訳ありませんが、議論にも上がるのかなと思ひまして、発言させていただきました。

バリアフリーはすごく大切ですが、今そこに段差があるから無くすこと、今ある不備に対して反省する言葉なんです。これから新規に作る時には、ユニバーサルデザインであったり、アクセシビリティであったり、もう少し上の場面で使われる言葉がすごく重要だと思います。

そういう言葉の使い方、理念の中、指針の中に持ち込むのであれば、盛り込んでいただきたいという立場で申し上げるのですが、ここでの議論の中で分かりやすくなるように、言葉の整理をしていただいて、資料をもとに、議論が進められればと思います。

委員

踏まえるべき要素の中に、抜けているなと思ったのが、私は荒川区の委員を今回初めてやるので、荒川区役所にはじめて来たのですが、素敵な庁舎だった。すごくカッコいい。この曲線を四方向広げた独特なデザインと、あと今残っているタイルとか、1階の床の舗装とか、すごく魅力的ですよ。

新しいものを考えるのも大事なんですが、今ある庁舎の魅力みたいなことはやっぱり再認識していただきたい。建築モード研究所というところが作っているんですが、渋谷区役所なんかも同事業者が作った。あのときの渋谷区役所の

面影は、今の渋谷区役所には残っていません。みんなが長年ここへ通ってきて、あの庁舎も味があったよね、みたいな感じを残す。ここの地で作っていくからには、この今の庁舎の魅力みたいなものもぜひ踏まえていただきたいというふうに思いました。

委員

今の委員のお話を聞いていて、私は荒川区で生まれて、旧庁舎よりも、今の庁舎の方が明るくて、本当にこの庁舎ができた時嬉しかったのを覚えています。小さかったから単純だったけど、すごくありがたかったです。

スカイツリーが出来たときに、北海道の貨車が、軌道からバスになるのを参考にして、荒川2丁目からスカイツリーにそういうことができないかと努力したことがあります。結果的には駄目でしたけど、先ほどの発言から、都電から区役所の方に便宜を図るのなら、そういうふうなこともあるのではと思います。

委員長

大体時間になりましたので、今日の皆さんの共通の議論としては、区役所の職員のことを考えないといけない。私も区民ですけども、良い人材を惹きつけて、その方々が意欲的に働いていただくことが、区民にとって非常に重要で、区がやっておられるサービスを、他の区を選んで受けることはできませんので、非常に重要だと思います。

それからコミュニケーションの話について、私は区役所職員の方々のコミュニケーションがすごく重要と考えています。先ほど申し上げましたが、区役所の中の縦割りがあまりない方が、区民の方にとっては良いサービスが基本的に受けられるのではと思います。

今、企業の方では、そういったオフィスを良くするっていうことについて相当投資が行われていて、人材を惹きつけるって意味では、そういう企業と競争していくのが現実問題ですので、荒川区に良い人材を惹きつけて、意欲的に働いていただくって言うことは、今の原案にはありませんけれども、是非入れたいというふうに思います。

それからコミュニケーションの問題について、区内に色々な区の施設があるわけですが、先ほど議論を聞いて、なるほどと思ったのは、区役所なりの感覚って言うんでしょうか、区役所に来て表彰を受けたとか、それはやっぱりゆいの森とは違う感覚があるのだと思うんですね。他の施設との役割分担もありますので、その辺の区役所なりのコミュニケーションの場としての重要性みたいなものを考えていけたらと思います。

また、都電の話がたくさんありましたし、それからこちらの公園と一体整備になりますので、公園がある庁舎ってというのは、それがないものとは全然違うと私は思います。公園と一体となった空間っていうんでしょうか、そういったことも区民の方々には、重要なものとしてアピールできるんじゃないかと思いました。

どう整理するかは難しいところですが、先ほども基本指針は良いとして、理念の方はビジョンだから短い方がいいっていうふうに思いますけど、一方で先ほどのような議論を一文で表すのはかなり難しいというところもあるかと思っています。いくつかに分けて整理をして、それを一文で表せるっていうご意見があれば短くしてもいいと思うのですが、最初から１個になってると多分、よくわからないというか。基本理念も幾つかの柱が分かれたような形で、次回以降提示させていただくのがいいかなと、皆さんの色々なご意見を聞いて思いました。

指針の方はそれをもう少し具体化したほうがいいと思いますし、都電という言葉も、具体的に出てきたほうがいいようにも思いました。

区民の方から見ると、あんまり抽象的なものってイメージできないんで、私の感覚で言うと、やっぱりイメージしやすいようなものが、方針になっていた方が訴求力もあるのかなというふうには思いました。

以上のようなことで、今日としては十分な場になって、色々なご意見をいただいたと思いますので、次回はそれを整理してお示しした上で、議論していきたいと思います。

5. 今後の日程について

6. 閉会